常総市まち・ひと・しごと
創生総合戦略会議　会議録

と　　き　　平成２７年８月１１日（火）
　　午後１時３０分から

と　こ　ろ　　常総市役所 議会棟 ２階 大会議室

第３回 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 会議録

平成２７年８月１１日（火）午後１時３０分から，第３回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を常総市役所議会棟２階大会議室に招集する。

会　議　日　程

１　開　　会

２　あいさつ

３　会議録署名委員の指名

４　協　　議

５　そ の 他

６　閉　　会

出席委員　　與座　清　飯田ふじ子　喜見山　明　堀越　輝子　生井　邦彦　中川　邦夫　北島　重司
細野　真哉　本橋　美章　岡田　一夫　小竹　里佐　北村　篤子　塩畑　実　山口　大

事務局　　企画部長　加倉田　謙二　企画課長　長妻　克美　情報政策課長　平間　孝
ＣＩＯ補佐官　岡崎　宏　企画課長補佐　小林　寛明　企画課特定政策係長　高野　慎吾
企画課特定政策係　宮川　直也　・　金子　浩也

企画課長補佐　　ただいまから，第３回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を開催する。はじめに，事前に配布させていただいた資料の確認をさせていただく。

「常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案」・「健康プランじょうそうの概要版」・「子ども・子育て支援事業計画の概要版」の３点である。また，本日の次第が皆様の前に置いてある。また「総合戦略・素案」の一部，１７ページと２２ページに修正があるので，修正内容とともに差し替え分を配布させていただいている。申し訳ないが，差し替えをお願いしたい。それでは，会議設置条例第６条に基づき，戦略会議の会長である，塩畑副市長に議事進行をお願いする。

会　長　　お忙しい中，第３回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議にお集まりいただき，感謝する。

本日は，事前に草間委員・長岡委員・五木田委員・福田委員・秋場委員・倉持委員の６名から欠席のご連絡をいただいている。過半数のご出席をいただいているので，本日の会議は成立する。

なお，本会議については，公開が原則となっているので，会議録を作成することを申し添える。まず，会議録署名人を決めたい。会長が指名してよろしいか。

（異議なしの声）

会　　長　　「生井　邦彦」委員と「中川　邦夫」委員を指名する。

それでは，次第に基づき会議を進めていきたい。次第４の協議に入る。本日は，中間報告として，人口ビジョン及び総合戦略の骨子の素案を皆様にお示ししたい。そちらの説明を，第１部・第２部・第３部に分けて事務局にしてもらい，委員の皆様からご意見を伺いたいと思う。それでは事務局，まず第１部の説明をお願いする。

（資料に基づき「第１部」を説明）

会　　長　　それでは，事務局から説明のあった第１部について，質問を受け付ける。

中川委員　　資料６ページの分娩取扱施設についてであるが，以前にもお話ししたが，きぬ医師会として，この地域に産婦人科がないのは好ましくないということで，現在，鋭意努力中である。実は，この地域出身で，現在，他の地域で開業している若い産婦人科医がいるのだが，帰ってきても良いとおっしゃってくれている方もいる。きぬ医師会としてもそのような方を筑波大学との連携等により，サポートしていき，その方をコアとしてこの地域に産婦人科ができるようにさらに努力していきたい。この地域に産婦人科ができることにより，周囲にも良い影響を及ぼしていけたらと思う。

飯田委員　　資料２６ページの補足資料に観光「あすなろの里のコンテンツを生かし，昭和に特化したテーマパークとする」とあるが，現状はどのようになっているのか。テーマパークにするためにはどれくらい改修が必要なのかを知りたい。

会　　長　　個別案件については質問を控えていただきたい。今回は，素案の大筋について議論したい。それは個別の案件になるので，会議終了後に個別に説明する。

飯田委員　　質問の意図としては，常総市には外国人が多いため，福島県にあるブリティッシュヒルズのように，あすなろの里を外国語のみを用いるテーマパークとして活用する可能性があるのではないかと考え，その可能性について検討したかった。

事 務 局　　個別案件に関しては，第３部の戦略の骨子で議論していただきたい。ちなみに，あすなろの里については，再生計画を策定し，議会等でも議論いただいている最中である。皆様にもそのうちお示ししたい。

細野委員　　常陽銀行水海道支店の行員で，産休・育児休暇を経て現場に復帰する女性行員が多くいる。その中で，つくばみらい市の保育施設に子供を預けてから通勤する職員が複数おり，通勤に時間がかかっている。そのような状況で子育てと仕事の両立が難しくなっている。女性行員の平均年齢もあがってきており，長く勤めたいと思っている行員が多くいる。先ほど，中川委員から産婦人科を誘致しているというご意見があったが，常総市で出産し，子育てをするという一連の流れが作れるような環境をぜひ作っていただきたい。

会　　長　　他に意見はないだろうか。ないようであれば，続いて第２部に移る。事務局から説明をお願いする。

（資料に基づき「第２部」を説明）

会　　長　　それでは，事務局から説明のあった第２部について、質問を受け付ける。

企画部長　　今の説明に補足をする。人口ビジョンの考え方において，１４ページの最後の行に書いてあることの説明だが，今後，このような施策を打つとこれだけ人口が増えるのではないかというシミュレーションは入っていない。そこがプラスアルファで重要な課題になってくるので，委員の皆様のご協力をいただき，良い施策展開を行っていきたい。

與座委員　　大きな特徴として，茨城県として若い女性の転出がものすごく多くなっていると思う。常総市も例外ではないであろう。つまりは，転出超過から転入超過へ構造変換していくためには，若い女性の転出を防ぎ，転入を増やす議論が必要だという考えでよろしいか。

企画部長　　まさにそのとおりである。データからも，そのような施策展開が必要だということが読み取れるので，事務局としても，そのような考えで進めていきたい。

細野委員　　なぜ若い女性の転出が多いのかについて，主だった理由は把握しているのか。

事 務 局　　若い女性の転出理由に関しては，今後その年代をターゲットにしたアンケート調査などを実施し，現状を把握したい。また，現在実施している転入・転出アンケート調査も分析に含めたい。

細野委員　　若い女性の転出は，多くの場合，仕事か結婚であると考えられる。県内での就職がままならず，都内で就職する傾向がある。特に，このあたりは都内での就職を視野に入れるだろう。そして，都内で就職してそのまま都内で結婚する。そのあたりを食い止める工夫がないと転出は減らないのではないか。

事 務 局　　今年の３月から水海道庁舎市民課窓口及び石下庁舎暮らしの窓口センター窓口で実施している転入・転出アンケートの現時点での集計結果を説明する。件数は３６１件で，そのうち転出理由として，就職・転勤・転職・退職の「仕事の都合」が５５．７％，進学・通学の「学校の都合」が４．２％，「子どもの学校の都合」が１％，結婚・離婚・縁組・親の介護などの「家庭の都合」が約２３％，新築・購入・借り換えの「住宅」が約１０％，「交通の利便性」が１．６％，「生活の利便性」が３％，「その他」が３％となっている。今後，クロス集計をして，男女差などの分析を進めていきたい。

生井委員　　昨年の超過数データだが，県内で転入が多かった自治体は，１位がつくばみらい市で９６９人，２位がつくば市で７２１人，３位以下は牛久市，阿見町，守谷市，鹿嶋市で，転入は県南に偏っている。一方，転出は１位が日立市で１，５９０人，２位が土浦市で３１８人，３位が筑西市で３１７人，４位が桜川市で３１４人，５位が稲敷市で３１３人，そして６位に常総市３０３人が入っている。常総市が６位という事実にはがっかりしたし，これはうかうかしていられない。転出には仕事の都合などいろいろな理由があると思うが，そもそも魅力が感じられないのではないだろうか。インフラの整備など，対策を講じる必要がある。

北村委員　　常総市から転出が多い理由としては仕事の都合が半数以上ということであるが，常総市は外国人，特にブラジル人の方の転出が多いと思われるデータが市のホームページ上にある。人口の増減を見るうえで，外国人は一つポイントになると思うので，転出者が日本人なのか外国人なのか，その内訳も知りたい。日立市の転出者が多いのは，業績不振により労働者の解雇や転勤などによるものかもしれない。転出者減少の指針を決めるためにも，より詳細なデータ分析結果がほしい。

事 務 局　　そのあたりのデータも集計し，後日お示ししたい。先ほど，生井委員からあった県内の転出の状況だが，県西地区はほとんどが転出超過になっている。県南地区でもつくば市・つくばみらい市・守谷市を除くと，龍ケ崎市や取手市なども転出超過になっている。そのあたりの分析も進めていきたい。

会　　長　　他に意見はないだろうか。ないようであれば，ここで１０分間の休憩に入る。１４時３５分から再開とする。

（休憩）

会　　長　　それでは，会議を再開する。続いて，第３部に移る。事務局から説明をお願いする。

（資料に基づき「第３部」を説明）

会　　長　　それでは，事務局から説明のあった第３部について，質問を受け付ける。

北村委員　　戦略１のミッション２に書かれている，豊田城をリノベーションしてどのようにひとの流れをつくるのか。豊田城をリノベーションすることによる効果がわからない。

事 務 局　　豊田城はミッション２以外にも絡んでくる。現在はあまり活用されていない施設であるが，圏央道インターチェンジからも近いということもあり，食と農を見据えた拠点として，人を呼び寄せたいと考えている。

会　　長　　２９ページの補足資料に挙げられているように，最上階をカフェとしたコンセプト図書館にする，などということである。

喜見山委員　　戦略１のミッション１に，農作物による６次産業化や新規就農への総合的支援とあるが，これらが必要なのはこれまでも言われてきたし，みんな理解している。また，ミッション２にはあすなろの里についても書かれてあるが，私はあすなろの里の理事をやっていて，トイレの修理や貸農園の問題などこれまでいろいろ提案をしても行政がいっこうに動いてくれない。何を言っても実行に移さないと意味がない。行政はなぜ一歩進んでくれないのか。地方創生で国はどんどん支援すると言っている。行政はとにかく計画を実行に移していただきたい。

長谷川前市長がまちなか再生をやったが，市長が変わったらやらなくなった。常総市は，こんなことを繰り返しているようでは人口は増えない。議論することも大事だが，とにかく行動していただきたい。

会　　長　　喜見山委員のご指摘には謙虚に耳を傾け，将来を見据え実行していきたい。

北島委員　　喜見山委員の意見とほぼ同じである。過去にも地方創生に似たような動きはあったが，他の成功体験や先進事例の視察をし，それを取り入れるだけだった。それはすぐに終わってしまったものばかりで，持続可能性がないものである。だから失敗した。

今回の地方創生総合戦略の命題は，持続可能性があるかどうかということだと思っている。そして，戦略を作る，戦術を作る，その後のアクションに移すことが何よりも重要である。もちろん，実行に移すには難しいこともある。しかし，やらないと始まらない。

国内の農村地帯も今回の戦略に食と農，あるいは健康という同じような文言を入れてくると思われる。重要なのは実行することである。そのために常総市が大事なのは人材と人脈があるかどうかである。そして，行政だけではなく，市民も行動することである。福島の例で言うと，震災復興が進んでいるのは人材がいるところである。ミッションまでは絵が書ける。データはある。そこからどうアクションに移すか。分析と実行には大きな壁がある。とにかく，実行に移せる，持続可能なミッションを作ることである。

今回の地方創生は，東京圏から人を地方に移すということを日本創成会議が掲げて，地方は姥捨て山かという批判があった。私はかつて，コロンビア計画に携わったことがある。リタイアした世代が第二の人生を海外で悠々自適に暮らすというものだったが，海外から批判があり計画で終わってしまい，その後，働ける人材を海外に移住させるというニューコロンビア計画が作られた。日本創成会議が提唱している高齢者の要介護者１３万人を受け入れるキャパシティが東京圏にはないので地方に分散させようというものはコロンビア計画と同じことだと思う。１３万人を，全国に分散させたほうが効率的だということは，ビッグデータからは見て取れるかもしれないが，実際に当人達が住むかどうかは別問題である。まず住んでみたいという衝動に駆られないと住まない。強制的に移住させようとしても無理である。これまでは，姉妹都市を締結しても，予定調和的に交流していたにすぎないが，姉妹都市や友好都市を結んだ都市とじっくり交流しながら調和していって，いずれここに住みたいと思ってもらうようにすることが必要だ。大都市との連携や災害時の助け合いなど，どんどんやるべきだと思う。その中から移住者は出てくる。常総市だけで実行が難しいものは，他の自治体と連携して取り組んでいかなければならない。強い交流がある自治体を見つけ，関係を作っていく必要がある。先日，副知事に提案したら県が仲人になってどんどん進めていくと言っていた。

それから，市として何をメッセージとして出すかである。「食」と「健幸」ではどんなまちかわからない。私は「常総市はお年寄りに優しいまち」がわかりやすくて良いと思う。道路に段差がないとか，スーパーにお年寄り専用のレジがあるとか，些細なことが優しさになり，それはみんなに優しいことになる。

また，総合計画に「健やかに ひとを育み みどり豊かな まちづくり じょうそう」というキャッチフレーズがあるが，漠然としていて特色がない。一言でどういう市かわかるメッセージが必要である。今回は，自治体が生き残るかどうか，本当に後がない大事な戦略になる。だからこそ，常総市はこうしたい，こうなるんだというものが明確にわかるような文言にしてほしい。それと，人材・人脈を活用して実行に移すことが目に見えるメッセージだと思う。

企画部長　貴重な意見感謝する。これまで，国もさまざまな成長戦略を打ち出してきた。しかし，成果があがっていないことを反省している。その原因は，縦割り行政，全国一律，ばらまき，表面的，短期的施策などである。市としても，そのような過去を踏まえて，アクションプランに優先順位をつけてどのように実行するかである。最終的には，人口に反映するという課題がある。

しかし，個人的な考えだが，現在の常総市は残念ながらスポイト現象により，ＴＸが開通したつくば市，守谷市，つくばみら

い市に人が吸い取られており，常総市単独で人を増やすというのは非常に難しいと思う。よって，他にはできないコンセプトをもって実行していかなければならないという使命感を持っている。

喜見山委員　ＴＸ開通によって，つくば市，守谷市で宅地分譲が進み，人口が引っ張られるのはやむを得ない。ただ，ＴＸによって交通の便が良くなり，農業体験などの需要と利便性が上がっている。これまでのものにこだわることなく、個性を出していけば需要はある。カスミ跡地や報徳銀行に目を向けるのではなく，もっとやるべきことがあるはず。市民の広場も作ったのに今でも駐車場にしか活用されていない。とにかくやると決まったことを実行に移すこと。実行に移せば必ず結果が出る。

北村委員　北島委員から，市民も一緒に動かなければいけないという話があった。昨日，市民協働課が行っているまちづくり推進委員会に出席した。その中で，まちづくりには行政だけでなく市民も一緒にやらなければダメなんだということを会議で申し上げた。持続可能な事業や実行力を育成するためには，行政と市民との協力が絶対に必要である。そのあたりで，この戦略と市民協働課で行っていることと関連付けはできるのか。

会　長　この戦略会議もそうであるが，市民の方々にもご参加いただいている。行政だけでできるものではなく，市民の方と一緒に進めていきたい。また，市民目線での施策を展開するために，アンケートやパブリックコメントを実施していきたい。

事務局　個々の施策についてはＫＰＩを設定し管理していくことになっている。また，戦略自体はＰＤＣＡを回し管理していくことになっている。その仕組みを，この戦略会議などで意見をいただきながら作っていきたいと思っている。

生井委員　昨日，水戸市で知事との会合があった。その中で，地下鉄８号線の延伸計画の話しになった。野田市までの延伸はほぼ決まっているようで，そこから茨城県内にまでさらに延伸させようと県と自治体が一緒になって頑張っているという。

私が思うに，市民に夢を持たせることが行政の役割だと思う。残念ながら，今の常総市は夢を見させてくれない。２０年後だろうが３０年後だろうが，将来こうなりますよ，というものを示して夢を持たせるようなことをしてほしい。地下鉄８号線につ

いては，現実的には実現は厳しいかもしれないが，みんなで夢を追いかけ力を合わせることが大事なことではないか。

常総市においては，至る所にある市有地の活用方法が全く示されず，我々にはビジョンが見えてこない。それが市民にとっての一番の不満なのではないか。ビジョンを持ち，しっかり実行に移していただきたい。

飯田委員　戦略の中に「食」を掲げているが，都内の知り合いに福島から近い茨城の食べ物は安全なのか？と今でもよく問われる。放射能の問題はいまだにあり，この対策案を考えなければ「日本一の食」を目指すための壁になるのではないだろうか。

事務局　そのあたりは，アクションプランでしっかりした対策を実行していきたい。

與座委員　これまで，ブレーンストーミングなどにより，さまざまな意見が出ていたが，これがどのようにまとまっていくのかを注目していた。私は，今回示された戦略１・２に大賛成である。よくこれにまとまったと思う。総論・各論さまざまな意見があると思うが，戦略１・２が固まったことでプライオリティができ，今後の議論の道筋が立てやすくなったと思う。

その中で２点確認させていただきたい。１点目は，戦略１についてだが，食と農業と食料品製造業が私の中で今一つ結びついてこない。事務局ではどのように考えているのか。２点目は，戦略２についてだが，生涯医療費の削減とあるが，生涯医療費のデータはあるのか。あればお示しいただきたい。生涯医療費の定義がよくわからない。

事務局　先日のプロジェクトチームでも，この戦略に関しては批判も含めいろいろな意見が出ていた。これから人口が減っていく中で，今の出荷額を維持していけばおのずと一人当たりの出荷額は上がっていくというような細かい話もあった。また，この戦略には掲載しきれていない食の魅力は他にもあるし，常総市は農業を無視できないというような意見もあった。そして，目指すのであれば，ナンバー１である。それらを含め，今後まとめていきたい。

医療費のデータについては，これからデータを集めて分析・検討していこうと考えている。生涯医療費についてはあらためてお示ししたい。

会　　長　　戦略１については，圏央道常総インターチェンジ周辺のアグリサイエンスバレーを中心に６次産業化を推進していきたいという考えがある。

堀越委員　　戦略２に書かれている「健幸」について，幸せの字を使っていて好感を覚えたが，何をもって幸せかという話になってくる。近年，工学博士の前野隆司氏やハーバード大学によって，幸せのメカニズムが研究されている。今の日本はあらゆる面で恵まれているが，幸せだと感じている人が少ないのではないか。きちんとした科学的な共通認識をもって，戦略を立てていかないと合理的なミッションの遂行ができないと考えている。また，北島委員の意見の通り，スローガンがありきたりだと感じる。魅力を出すためには遊び心も必要なのではないか。

私はヤギを飼っていて「私もヤギもハッピーなまち常総」のような，みんながなんだろうと思うような奇抜な発想も必要だと思い，地域みんなで耕作放棄地や空き地でヤギを育て，乳を搾り，みんなでミルクを飲んでみるというようなことを以前提案させていただいた。そのような体験を通じて，高齢者や子供達がどれだけ生産に関わっていくか，「生産」というキーワードがこれからは大事だと思っている。自分は何ができるか，人のために自分は何ができるかを考える機会を与えていきたい。

他のまちとの違いを出しながら，このまちの歴史を見つめなおして戦略をつくっていければと思う。

北島委員　　戦略２についてだが，内閣府の健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区があるが，それと常総市が目指す健幸との違いは？同じように総合特区を目指すのか。何がオンリーワンになるのか。

事 務 局　　現在，ミッションの定義までであり具体的な議論が煮詰まっていない。総合特区にするのかどうかを含めて，今後，知恵をお借りしたい。

岡田委員　　２０６０年を考えるにあたり，１９７０年代はどうだったかを思い出してみると，当時の日本の出生率は２．２であった。その時は，便利さは今と比べものにならないが，不幸だったとは全く感じなかった。幸福感とは，相対的なものであって，上位を目指さなくても持てるものであり，幸せになることはできるはずである。

それから，茨城県に日本一の収穫量を誇る農作物がたくさんある。この県西地区にも良い作物はたくさんある。しかし，売ることが下手な一面があると思う。良い物を作ってもそれに見合った報酬を得られていない現状がある。そこで，戦略においては「ものをたくさん作って，うまく売る」ことがテーマになると思っている。

それと，農地を増やすだけではなく，農業の生産性をあげてもそこで働く人の所得を上げるのはなかなか難しいと思う。儲からなければ人はそこにいない。建築業の観点から申し上げると，都市計画の話しにもなるが，ただ農地を増やすのではなく，農地プラス住宅地を増やすことが必要だと考える。常総市と守谷市は人口がほぼ同じだが，世帯数が守谷市の方がかなり多い。その点でも住宅地の整備が必要である。

会　　長　　おっしゃるとおり，農業振興単体では地域間競争に生き残っていくことはできないので，いろいろ付随して取り組んでいけなければならないと考えている。

他に意見はないだろうか。ないようであれば，これで４の協議「常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子の素案について」を終わりにする。なお，素案についての意見については，今後もメールや電話などでも事務局で受け付けているので，よろしくお願いしたい。

次に，５のその他に移る。事務局から説明をお願いする。

事 務 局　　（次回日程等，今後のスケジュールや追加意見送付の依頼の説明）

事 務 局　　ご質問ないか。ないようであれば，以上で，第３回常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を閉会する。
ご協力，ありがとうございました。

（午後３時４０分　会議終了）

上記の議事の正確なることを証するためここに署名する。

平成２７年　9　月　1　日

常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

会　長　塩畑　実

署名人　生井邦彦

署名人　中川邦夫